

(株)キッツエスジーエス



技術本部技術開発部設計課

中村 海斗さん

工学部機械工学科卒
入社7年目

実感を込める。

挑戦支える
チームの結束力

呼び径200の空気弁のラインナップ追加を担

当した際、技術的な壁に直面した。「他社製品よりコンパクトな設計を目指しつつ、規格で定められた排気量を確保しなければならず、設計は難航しました。」

開発スケジュールが遅延しかけた際、上席者の適切な判断と周囲の迅速なフォローが局面を打開した。主体性を重んじつつも、行き詰まった時は組織全体でバックアップする体制があり、定例会議などを通じた他部署との密な連携が若手の挑戦を支える。

「納期を優先して品質を妥協するのではなく、納得いくまで突き詰めさせてくれたことは今も強く印象に残っています。」

資格取得と知見向上への決意

着実に実績を積み中村さんだが、眼差しは常に先を見据える。「実務を通じて学ぶほどに知識不足を痛感します。現場で求められる知見をより深く蓄えたい。」

今後は電動弁の制御に不可欠な電気結線図を読み解くため、電気関係の資格取得を目指す。会社が外部講習費用を全額負担する支援制度も彼の意欲を後押しする。

滋賀県彦根市に本社を置くキッツエスジーエスは、仕切弁や消火栓、空気弁などの水道用バルブで常にトップシェアを誇る水道用バルブメーカーだ。技術開発部で入社7年目を迎えた中村海斗さんは、学生時代に流体力学を専攻し自動車の空気を抵抗を研究していたが、製品全体を見渡せる開発環境に魅力を感じ、バルブ設計の道を選んだ。

午前中は営業部門からの依頼に基づく図面や仕様書の作成、日中は顧客への回答や研究テーマの推進。デスクワークと研究を往復する日々だが、「研究はようやく折り返し地点。試行錯誤の過程も、技術者としてやりがいを感じる瞬間です」と

「入社直後から開発テーマを与えられ、自分でスケジュールを立てて主導します。自分が躓けば全体の進行に影響する緊張感があります。早い段階から責任ある業務を任せてもらえらることで、確かな成長の手応えを感じています」と語る。

一貫体制が育む 開発の主体性

「設計から納品まで、一貫して全てを自社で作る。分業化が進む他業界にはない大きな魅力を感じました」と振り返る。市場を牽引する製品群を有する同社では、盤石な事業基盤を背景と

入社2年目から取り組む研究テーマは空気弁の耐震化だ。「地震大国の日本において、管路の末端で被害を受けやすい空気弁の破損メカニズムの解明と対策は急務です。現在は研究機関との共同研究を進め、得られた知見を製品化に繋げるべく検証を繰り返しています。」

水流制御の最適化を設計 空気弁開発に技術者魂込め

着実に実績を積み中村さん



オリジナル製品の開発も活発。技術者として成長の機会が多い

「設計から形になるまで一貫したモノづくりに携わりたい人にとって、当社は最適な場所です。公共性の高い水道の仕事で、自ら手がけた製品が社会を支える手応えをぜひ味わってほしい。」

地域に根ざした貢献と技術的探求の両立を目指す若き技術者の歩みは、これからも着実に続いていく。